

2018年  
No.85  
9月1日発行

## 国際こだいら



KODAIRA INTERNATIONAL FRIENDSHIP ASSOCIATION

今号からカラーになりました！

- 『やさしい日本語』を使ってみよう
- はじめてのフランス語講座
- 日本語会話教室 ほか



## 『やさしい日本語』を使ってみよう

5月7日(月)

東京オリンピックが近づく中、最近『やさしい日本語』を使って外国人とコミュニケーションをとろうという話をよく耳にします。そこでKIFAでもこの学習会が開催されました。講師はKIFA日本語教室でボランティアをされている山本英子さんです。20名以上が参加し、前半は『やさしい日本語』とは何かなど、使う際の前提となる注意点を学びました。後半は実際に、通常の日本語を『やさしい日本語』に書き換えてみるという学習会でした。

『やさしい日本語』とは、通常の日本語をできる限り簡単な日本語に置き換えて、一文を短くシンプルにすることにより、日本語に慣れていない外国人でもわかりやすくするよう

にしたものです。

外国人というと、私達はついつい英語で話そうとしがちですが、日本、そして小平にいる外国人の多くが、中国、韓国、ベトナムなど英語圏ではありません。そのため、英語よりも『やさしい日本語』で伝えたほうが伝わりやすいといえるようです。

『やさしい日本語』は、もともと災害時の外国人への情報提供のために研究されていたものです。それを今回は、日本に定住する外国人に対して、日常生活においても積極的に使いコミュニケーションをとってみましょうというお話でした。次のページでは、『やさしい日本語』を具体的にお伝えします。

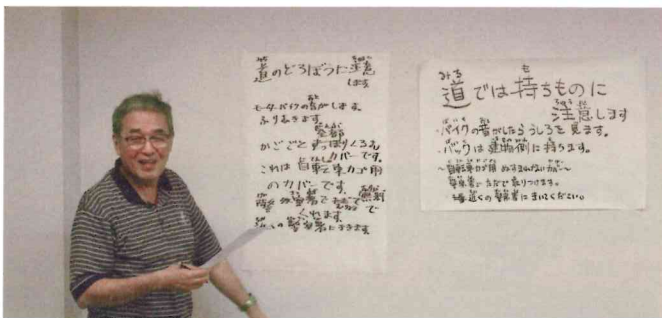


## 『やさしい日本語』を使ってみよう -1面よりつづき-



通常の日本語を、『やさしい日本語』に置き換えるポイントを一部紹介します。

- まず、相手にとって何が必要な情報かを考えます。(短いサンプルな文にするため、この部分がとても重要です。)
- 1文中1情報になるようにします。
- 文を短くし、1文に主語述語は1つずつとします。(複雑で長い文は、いくつかの短い文に分けます。)
- 尊敬語、謙譲語は使いません。
- 曖昧な表現は避けます。
- 条件を表すには「～のとき、」を使います。
- 日常生活でよく使い、見慣れたほうが良い漢字や、固有名詞はそのままにします。
- カタカナと漢字には、全てひらがなでルビをふります。



『やさしい日本語』は、簡単な日本語ならわかるという外国人を対象にしています。日本人にとっては少し不自然な部分もありますが、あくまでも目的は『伝える』ことにあります。『やさしい日本語』は、外国人にとってのやさしい日本語です。実際に書き換えてみると、簡単ではありません。警察署のチラシを、班ごとに話し合いながら『やさしい日本語』に書き換えてみた時間では、皆うーんと唸り、参加者からは『『やさしい日本語』はやさしくない』という声もあがり、笑いがおきました。

簡単ではなくても、情報がきちんと伝われば、日本人も外国人もうれしいはずです。KIFAではこれからも、『やさしい日本語』学習会を行う予定ですので、これを機会にぜひ、『やさしい日本語』をつかったコミュニケーションに、挑戦してみてください。

下の二つの文章を読み比べてみてください。

### 【文章 A】

けさ7時21分頃、東北地方を中心に広い範囲で強い地震がありました。

大きな地震のあとには必ず余震があります。

引き続き厳重に注意してください。

皆さんおちついて行動をお願いします。

ガス臭いようなところがありましたらマッチを擦ったり、照明のスイッチをつけたり、消したり、ということはいしないでください。

弘前市は断水や停電となり、市民の生活は麻痺しています。中心部の雑居ビルが完全に崩れ落ちています。

### 【文章 B】

今日朝7時21分、東北地方で大きい地震がありました。

大きい地震の後は余震(後から来る地震)があります。

気をつけてください。

火を使わないでください。

火事に気をつけてください。

弘前市は水と電気が使えません。

地震で倒れた建物に気をつけてください。

【文章 A】は阪神・淡路大震災のときに、実際にラジオで放送された文を弘前市向けにしたものです。

詳しく書いてあって、たくさんのがわかります。

【文章 B】は、【文章 A】よりも情報量は少ないですが、読んですぐに内容がわかります。

【文章 B】のほうが理解しやすく、日本語に不慣れな外国人にもわかりやすいと思います。なぜなら、【文章 B】は一つ一つの文章が短くすっきりしていて、難しいことばを使っていないからです。

【文章 B】で使っていることばが「やさしい日本語」です。

※弘前大学人文学部社会言語学研究室 やさしい日本語 ホームページより



## 初めてのフランス語講座

取材日：5月25日（金）

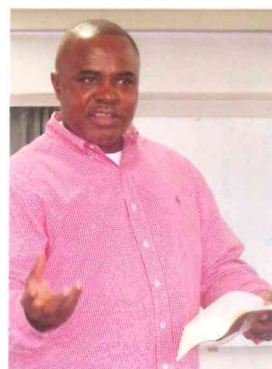
初夏の暑さの中にも爽やかな風が心地良いこの日、3回目のフランス語講座に9名の受講生が参加しました。KIFAでの開講は5年ぶりです。

パリ出身の講師、エトガ・アレクサンダー・ポールさんは1995年からフランス語や英語の教師として嘉悦大学やKIFAなどで幅広く活躍されています。日本語も堪能で、ジョークを交えた気さくで明るい先生の授業に、受講生たちはとてもリラックスした様子でした。

この日は、英語とは違うフランス語の独特な母音の発音を中心に勉強しました。例えば“ai”はエ“oi”はワと読みます。先生のお手本に続いて、受講生が揃って発音します。その後、女性は「マダム」男性は「ムッシュー」と呼ばれて、一人ずつ丁寧に練習します。間違っていないか迷っていても「自信を持ってください」と安心させてくれます。答えが合っていると「トレビアン」（よくできました）と褒められます。受講生は先生の執筆したテキストを使いながら、分からない所は積極的に質問するなど、

集中して授業に参加している様子が印象的でした。

また、私たちの日常の中には意外とよく聞くフランス語が沢山あります。例えばお菓子のミルフィーユ。これはミルが千枚の、フィーユが葉っぱという意味で、勉強していく中で意味が分かっていくのも楽しみの一つです。他には、カフェオレ、ショコラ、



講師のエトガさん

クロワッサン、シャンパンなども有名です。ワインが趣味でこの講座を受けるきっかけになった方もいました。

「フランス人だって生まれ育ってフランス語を話せるようにはなっても、学校へ行って学んで初めて書けるようになる。話すことと書くことは別で、時間をかけて慣れていくことが大事です。」と先生は言われました。言語は文化の中でも最も基本的な部分です。外国語を学ぶ目的は人によって様々でしょうが、習得していくことでその人の世界が広がっていけばいいと思います。



## 日本語会話教室

取材日：6月23日（土）

KIFAでは、通年にわたり週3回日本語会話教室が開講されています。学習者のレベルに合わせた少人数のグループレッスンで、取材当日は5クラスに分かれて学習していました。

日本語会話教室では、いつでも学習者を受け入れています。新しい希望者には、まず日本語指導ボランティアがインタビューをしてクラスを決めるそうです。日本語指導ボランティアは日本語教師の資格を持ったベテランで、各クラスを担当しています。

学習者の国籍や年齢は様々ですが、中国やベトナム出身の人が多く、結婚して日本に住んでいるから、仕事に必要だからという理由で学ぶケースが多いようでした。中には初級から4,5年通い続けている学習者もいました。

日本語会話教室ということで、お喋り中心の和気あいあいとしたクラスを想像していましたが、実際は内容が多岐にわたる濃厚な授業風景でした。例えば、擬態語の



ウキウキとワクワクの違いについて絵を見て話しあうクラスもあれば、日本ならではの文化やコミュニケーションを学ぶ様子も印象的でした。七夕飾りの作り方をプリントで学びながら、実際に手を動かして作ってみるクラス。先生や先輩など目上の人に助言を求める場合にどのように言えばいいか、日本では目上の人にはアドバイスをしないなど、普段日本人として当たり前のように考える言葉や作法を改めて顧みる機会となりました。

授業の後は、保育で預けられていた学習者の子ども達も参加してティータイムを楽しみました。授業中はときに厳かな雰囲気でも、真剣な表情をみせたボランティアや学習者たちが一転し、笑顔いっぱいできいきと会話を楽しんでいました。日本での暮らしやお弁当作りの話に花が咲き、自分たちの国と日本の文化の違いなどを話していました。うまく伝えられないときは仲間と母国語で話しながら説明を続けてみるなど、打ち解けた交流の時間でも貴重な学び合いが展開され、ボランティアや学習者同士の絆を深めていました。



授業のあとのティータイム

## ボランティア説明会 5月26日(土)

たくさんの方にKIFAボランティアとして関わってもらおうと、数年ぶりにボランティア説明会が開かれました。参加者は10人程度の見込みでしたが、定刻の開始時間には30名を超える方々が着席していました。

はじめに住田事務局長の挨拶、次にKIFAの活動全般について説明がありました。KIFAボランティアは能動的、自発的なグループ活動が多いことが伝えられました。11種類あるボランティアグループから約1分間ずつのスピーチがあり、その後は、参加者が興味のあるボランティアグループのブースに行き直接相談するという流れでした。

各ブースではお茶を交えながら、ボランティアメンバーが具体的な活動の内容や流れを話し、興味があり都合が合いそうなら、まずは一度見学してもらうことをすすめていました。学生とみられる若者も多く、活動の時間帯も重要なポイントのようです。

ボランティアグループ一覧	
ボランティアグループ	活動内容
翻訳・通訳	ミニレターや行政文書等の翻訳・説明会等での通訳
生活情報提供	外国人対象の生活情報に関する説明会の企画・運営
機関紙の編集・発行	「国際こだいら」発行のための取材・執筆・校正
災害時対応	災害時外国人支援の体制や啓発活動の企画・運営
国際理解講座	小学生対象講座「国際こどもクラブ」と、大人対象「多文化理解講座 in English」の運営
日本語会話教室指導	外国人への日本語指導 ※要資格（詳細はお尋ねください）
保育（日本語会話教室）	日本語会話教室受講者の乳幼児の保育
こども日本語・学習支援教室	外国人ルーツのこどもへの日本語指導・学習支援
ホームビジットホスト	外国人の家庭訪問の受け入れ
交流イベント企画	市民と外国人との交流イベントの企画・運営
世界の料理紹介	各国料理紹介講座の運営

\*詳しくはお問合わせください

自分の特技を活かしたいと思われる『翻訳・通訳』ブースは大勢の人が詰めかけ、みな熱心に耳を傾けていました。『災害時対応』ブースは非常食をつまみながら、終了時間になってもまだ話し足りない様子でした。



参加者の中には、いくつかのブースをはしごしている方も多く、ボランティアをしたいという熱意に驚かされました。参加された皆様とどこかでご一緒するのを楽しみにしています。

### これからの行事予定

- ◎外国人のための幼稚園・保育園説明会 9月29日(土)
- ◎多文化理解講座 in English 10月6日～20日 土曜日(全3回)
- ◎こだいら市民まつりパレード参加 10月21日(日)
- ◎外国人と日本人による教育についての座談会 10月27日(土)
- ◎外国人のための日本文化体験 11月3日(祝)
- ◎ISDAK 商店街ツアー 11月10日(土)
- ◎グリーンロードウォークと収穫祭を楽しもう 11月23日(祝)
- ◎こだいら国際交流フェスティバル 11月25日(日)
- ◎小平市日本語発表会 12月9日(日)

\*詳しくは、KIFAミニレターまたはHPをご覧ください。

## 平成29年度収支決算 (平成29年4月1日～平成30年3月31日まで)

### ● 収入の部

(単位：円)

科目	決算額
賛助会費収入	1,215,000
補助金収入（市補助金）	13,978,000
寄附金収入	32,400
事業収入	7,546,600
事業受託金	300,000
雑収入（預金利子等）	11,253
前期繰越収支差額	1,448,793
収入合計	24,532,046

### ● 支出の部

(単位：円)

科目	決算額
事業費	7,544,158
国際理解及び国際親善の普及事業	5,502,607
地域における友好交流事業	296,488
地域や日本文化並びに外国都市や外国文化の紹介事業	350,248
国際交流情報の収集及び地域への情報提供事業	1,111,403
その他協会目的達成事業	283,412
管理費（管理運営費）	14,301,659
積立金	400,000
支出合計	22,245,817

### 編集後記

皆様ご覧のとおり、今号からオールカラーの紙面となりました。カラー導入に先立ち、小平市の広報担当からレクチャーを受け、カラー紙面の心構えを教わりましたが、カラーを生かす工夫はこれからの課題です。紙面をご覧になった感想やアドバイスをいただくと嬉しいです。そして、写真や編集に興味のある方、紙面づくりに参加してみませんか。お待ちしております。(Y.Y)



発行日 2018年9月1日  
発行 小平市国際交流協会  
編集 機関紙グループ  
〒187-0045  
小平市学園西町2-12-22  
学園西町地域センター 3階  
TEL. 042-342-4488  
FAX. 042-347-3003